

114
A2120



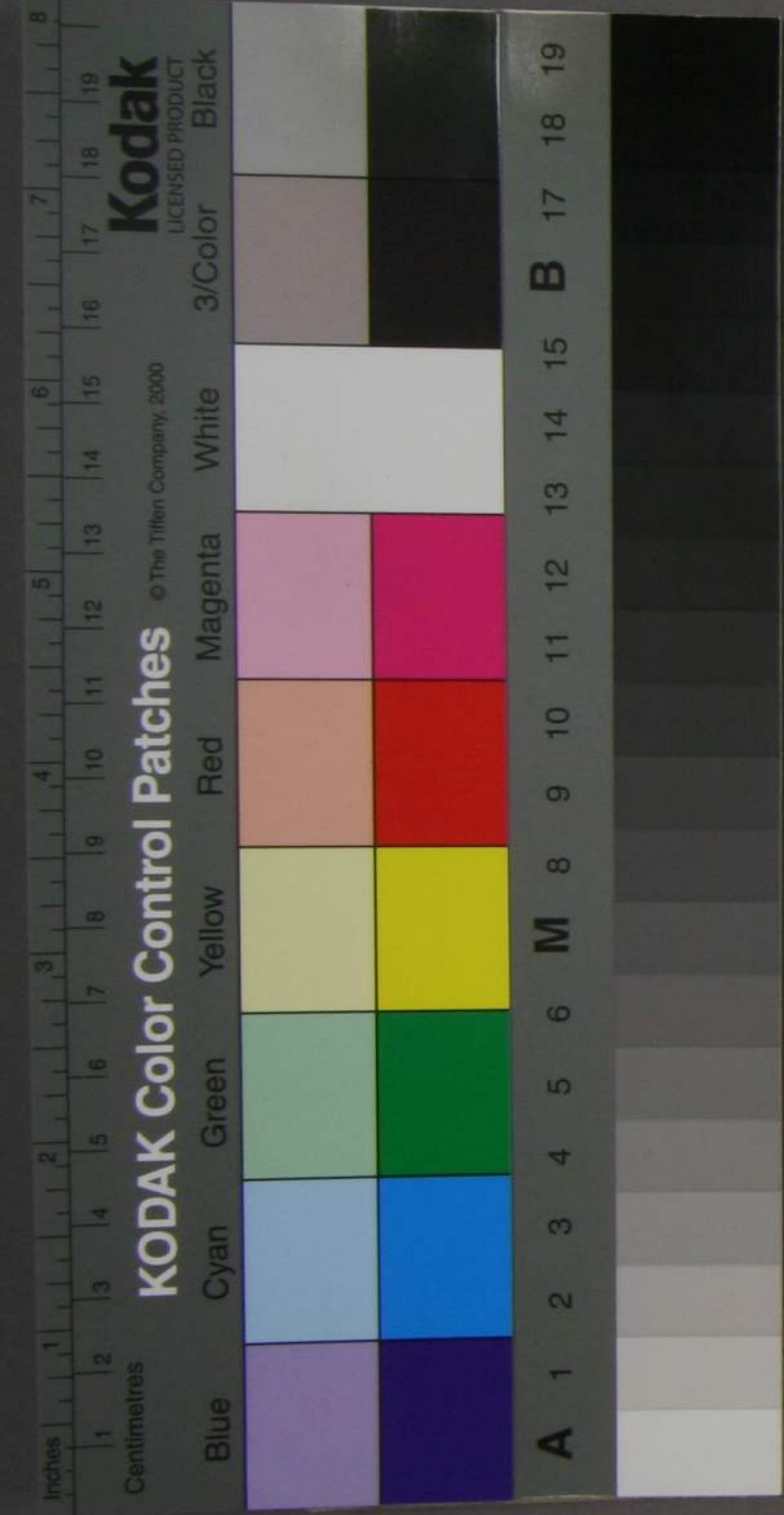
禄制ノ議

大正十一年四月
隈侯爵 贈

會計ノ事或ハ云フ出シ量リ入ルヲ為スト其論甚高
ト虽氏時ト勢トシ擇バサレ可ラス且常人ノ耻ク為
ス所ニ非ス今大藏ノ入ル所出ス所ヲ償ハサレ歳ニ一
千萬四ニ近シ豈耻ク方畧ノ其出ルヲ量リテ入ルヲ
為モノアラシヤ必スヤ入シ量リテ出ルヲ制セサル可ラス今天
下ノ歳入仮リニ五千万四トナサバ之ヲ以テ上

天皇ヲ始メ下諸省府縣華士族ニ至ル迄各其分ニ応

大反府



シ常費金額ヲ定ムル可ラス而今其足ラサルカ爲ニ
独リ華士族ノ祿ヲ減セントスルハ不可九ニ似タリ夫レ歳
入ノ足ラサル天下廣ク此責ヲ擔ハサル可ラス或云人
民ノ膏血獨華士族其手ヲ空クヒテ坐食スルノ理アラシ
ヤト其論真ニ然リ然レ尺因襲ノ文レキ其理ヲ明
ニスルモノ天下僅ニ指ヲ屈スルノニ其勢ヲ罔ルニ今依ニ空
手坐食ノ理ナキヲ以テセス必ヤ先大義名分ヲ明ニ
ニシ道ノ此ニ出サル可ラサルノ理ヲ示シ大ニ天下ノ倉庫ヲ

聞キ人民亦歳出入ノ相給スルニ足ラサルヲ知ラハ誰カ
難シ 天皇ニ責メ而已レ独リ坐食スルモノアラシヤ
試ニ一身ヲ以テ論スルニ曾テ出入ノ相償ハサルヲ
聞ク或ハ少シク疑フ処ナキニ非ス今此會ニ於テ始テ
其詳ヲ聞キ且金庫ヲ見ルヲ得テ一ハ以テ驚キ一ハ以
テ悟覚スル所アリ庶幾クハ此心ヲ天下ニ推シ同舟難シ
共ニスルノ義ヲ明クニシ先ツ其五千万圓ヲ以テ外國債其他
欠ッ可ラサルノ費ニ供シ其餘贏餘四千万圓トナサバ之ヲ

以テ第一 天皇ノ常費ヲ定メ而後海陸軍資諸省
府縣ノ常額ヲ定メ遂ニ華士族ノ祿ニ及フヘシ今華族
ノ祿 天皇ノ常費ニ超ルモノ少トセス實ニ冠履ノ顛
倒ト云ヘシ故ニ之ヲ定ムル必ス 天皇ノ常額ヲ目的ト
ナシ其十分ノ一或ハニシ以テ上等トシ順序ヲ追テ程減
シ百石ニ至リテ止ム之ヲ下等トナス士族ノ祿百石ヲ以テ
上等トナシ順序ニ程減シ十石ニ至リテ止ム之ヲ下等ト
ナス其金額既ニ定ムルモ歳入ハ豫メ定ム可ラス然ルトキハ

平生其金額スルモ年ノ豊凶ニ依テ其厚シ制スルノ法ヲ
定メサル可ラス其豊凶ヤ定額ヲ以シ其凶トヤ

天皇ト虽氏之ヲ減シ華士族ノ家祿諸省ノ事業ニ
於テ費ス所ノモノモ亦從テ減スルノ理スル今日ニ期シ天
下ト共ニ進ニ天下ト共ニ退キ歳入ノ多寡ニ應レテ各其
分ヲ定ム寸ハ名義大ニ正シク人心亦大ニ遺憾ナクヘシ

副議

或ハ云フ歳出入ノ足ラサルヲ以テ減祿ヲ論ス寸ハ其相償

フニ至ラバ亦其旧ニ復セ尤可ラス故ニ断然其制ヲ改
メ二十年三十年ノ後ニ至リテハ尽ク之ヲ官設スルノ法ヲ
立ヘシト是其勢ヲ因ラサルノ説ニ他年歳出入相償フ
ノ日ハ國勢人心既ニ今日ノ公ニ非ス人々復旧ヲ言フ
却テ奉還ヲ論セントス近ク之ヲ一家ノ改革ニ譬フ
ルニ旧慣ニ拘スルノ父老アリバ其事ヲ舉ラス強テ之ヲ行
フ大ニ難シ然ルニ尤者ハ立シ辞シ幼者既ニ長スルニ
及シテハ人ト時ト互ニ進ミ手ヲツカセサルモ自然ニシテ行ル、

モノアリ是同一ノ理ニシテ今此二十年ヲ送ラバ國歩逾
三人智益閑ケ旧習固執ノ風一洗シ祿制ノ事
汲々令マスルヲ待タザルニ至ラシ

